

図4. 2 航路の実証運航前後の平日便数

【中町・高田～宇品航路】			→	高速船 3隻 1日 27便		
フェリー1隻	1日	6便		高速船 2隻	1日	20便
【三高・大須～宇品航路】			→	変更なし		
フェリー2隻	1日	16便				

10月から
実証運航へ

中町・高田～宇品航路（市営船）のフェリー便を廃止し、高速船を増便します。
三高・大須～宇品航路の便数は変更なし。



▲三高港

図5. 高速船運賃値下げ案

①運賃（大人）	1,030円	→	930円
②回数券	総額10,300円 11枚綴り (1枚 936円)	→	総額9,300円 12枚綴り (1枚 775円)

※6枚綴りも検討

フェリー便の
廃止には

交通協議会が高速船の運賃値下げなどを検討中です。ただし、運賃改正は条例改正（市議会の議決）が必要です。

特集

どうなる交通問題

～ 西能美航路と秋月・呉航路の社会実験 ～

西能美航路の一元化へ！ 10月から半年の社会実験

なぜフェリー便の一元化なのか

- ①人口減少や陸路利用の増加による航路利用者減。
- ②市営船と芸備商船の2社体制では供給過剰。

フェリーの収入源である車両が分散し、運航採算が悪化。

- ①市営船は税金による赤字補てん。
- ②芸備商船は減便を検討。

合理化・効率化へ

- ①フェリー航路を一航路に集約し、一便あたりの運搬車両台数を増やす。
- ②運航距離の短い三高港にフェリー便を集約。（燃料費の低減によるコストダウン）

平成21年7月に江田島市公共交通協議会（以下、交通協議会）が発足し、約1年をかけて海上交通（航路）や陸上交通（バス、タクシーなど）の公共交通を持続可能なかたちに再構築することを目的に、江田島市地域公共交通総合連携計画を本年3月に策定しました。
今回は西能美航路と秋月・呉航路を中心に説明します。

図1. 市営船の運航採算

	H17	H18	H19	H20	H21 (見込)
フェリー	▲82,288	▲113,480	▲98,708	▲65,520	▲98,536
高速船	▲17,780	▲28,996	36,441	8,126	46,177
合計	▲100,068	▲142,476	▲62,267	▲57,394	▲52,359

※ H20. フェリー売却の特別利益除く

図2. 中町・高田～宇品航路（市企業局）

運航期間		H21.4.1～22.3.31	H22.10.1～23.9.30 (見込)
収入 (A)	運航収入	492,129	389,669
	計	492,129	389,669
費用 (B)	運航費用	468,685	373,838
	営業費用	61,765	38,540
	その他	12,878	4,746
	計	543,328	417,124
収支 (A) - (B)		▲51,199	▲27,455

図3. 三高・大須～宇品航路（芸備商船）

運航期間		H21.4.1～22.3.31	H22.10.1～23.9.30 (見込)
収入 (A)	運航収入	316,632	373,072
	計	316,632	373,072
費用 (B)	運航費用	248,000	254,000
	営業費用	97,900	79,000
	その他	24,050	24,150
	計	369,950	357,150
収支 (A) - (B)		▲53,318	15,922

フェリー一元化で 収支改善へ

交通協議会の資料では両航路とも大幅な収支改善を見込んでいます。

秋月・呉航路 7月から社会実験

大昭汽船が運航している秋月・呉航路について7月から4ヶ月間の実証運航をします。
社会実験運航費や代替交通確保補助金（千二百六十万円）を含む補正予算が6月定例会で可決されました。

合理化の努力で 実験へ

今年3月までの一年間で約二千六百万円（月間215万円）の赤字を合理化によって月間140万円まで圧縮する。（赤字を補助金で補てん）
利用者の少ない日中便の削減
日祝日の運航休止
運賃80円値上げ（大人420円↓500円）
人件費25%カット

図6. 秋月・呉航路 社会実験終了後の対応

ケース	対応
ケース①	11月以降も海上交通で対応（大昭汽船又は他社による運航）
ケース②	陸上代替交通の導入まで（来年3月末まで）他社運航による海上交通。
ケース③	陸上代替交通の導入まで（来年3月末まで）貸切（バス・タクシー等）で小用港へ。

社会実験終了後（11月以降）の方針を9月までに決定する予定となっています。



▲秋月港